



SWIFTNet メッセージングサービス

SWIFTNet RMA Service

必須テストシナリオ

本書は日本語参考訳です。英語版が優先します。本書はリレーションシップマネジメントアプリケーション (Relationship Management Application、RMA) を本番稼働させる前に実行する必要がある、最低限の必須テストシナリオについて説明しています。これらのテストシナリオはベンダー中立のため、いかなるベンダーが提供している RMA ソフトウェアでも実行することができます。

2007 年月 18 日



免責事項

著作権

Copyright © S.W.I.F.T. SCRL (“SWIFT”), Avenue Adèle 1, B-1310 La Hulpe, Belgium, or its licensors, 2007. All rights reserved.

本書を組織内でコピーすることは構いません。但し、以下の法的事項を必ず記載してください。

守秘義務

本書には SWIFT およびサードパーティの機密情報が含まれている場合があります。SWIFT から事前に書面による許可を得ずに、本書を外部に開示することはできません。

免責事項

本書は情報提供のみを目的としています。内容は作成時点で最新のものですが、適宜変更される場合があります。必ず最新版を参照するようにしてください。

翻訳版について

本書は日本語参考訳です。英語版が優先します。

商標

SWIFT、S.W.I.F.T.、SWIFT ロゴ、Sibos、SWIFTNet、SWIFTAlliance、SWIFTStandards、SWIFTReady および Accord は S.W.I.F.T. SCRL の商標です。SWIFTSolutions、SWIFTWatch、SWIFTSupport など SWIFT から派生したその他のサービスおよび製品名は S.W.I.F.T. SCRL の商標です。SWIFT は S.W.I.F.T. SCRL の商号です。本書に記載されているその他の全ての製品または企業名は各所有者の商号、商標、または登録商標です。

序文

本書について

本書は日本語参考訳です。英語版が優先します。本書はリレーションシップマネジメントアプリケーション (Relationship Management Application、RMA) を本番稼働させる前に実行する必要がある、最低限の必須テストシナリオについて説明しています。これらのテストシナリオはベンダー中立のため、いかなるベンダーが提供している RMA ソフトウェアでも実行することができます。

本書の対象者

本書は以下の方を対象としています:

- RMA のオペレーター
- RMA ユーザーのマネージャー

関連文書

- *SWIFTNet RMA プランニングガイド*
- *SWIFT User Handbook*、*SWIFTStandards MT*、*General Information*

目次

1	前提条件	5
2	必須テスト	7
2.1	ストアアンドフォワード RMA テストキューの取得	7
2.2	最初の RMA メッセージ送受信：照会回答	8
2.2.1	自身の T&T BIC に照会メッセージを送信	8
2.2.2	RMA 照会メッセージの受信	9
2.2.3	RMA 回答メッセージを自身に送信	9
2.2.4	RMA 回答メッセージの受信	10
2.3	RMA オーソリゼーションの付与・受理	10
2.3.1	自身の T&T BIC に RMA オーソリゼーションを付与する	10
2.3.2	自身に送信した RMA オーソリゼーションメッセージの受信と受理 (Accept)	11
2.4	RMA オーソリゼーションを FIN インターフェースに転送 (該当する場合)	11
2.5	RMA オーソリゼーションが FIN メッセージ通信を許可していることを検証	12
2.5.1	認証 FIN T&T メッセージを自身に送信	12
2.5.2	BKE キーなしで認証 FIN T&T メッセージを自身に送信	13
2.6	オーソリゼーションの拒否	13
2.6.1	送信オーソリゼーションの拒否	13
2.6.2	送信されてきた拒否メッセージの処理	14
2.6.3	送信オーソリゼーションが拒否された状態で FIN メッセージの送信を試みる	15
2.7	オーソリゼーションの削除	16
2.7.1	以前受理した RMA 送信オーソリゼーションの削除	16
2.7.2	送信されてきた拒否メッセージの処理	16
2.7.3	送信オーソリゼーションのステータスが「削除」の状態で FIN メッセージの送信を試みる	17
2.8	オーソリゼーションの破棄	17
2.8.1	受信オーソリゼーションの破棄	17
2.8.2	送信されてきた破棄メッセージの処理	17
2.8.3	送信オーソリゼーションのステータスが「破棄」の状態で FIN メッセージの送信を試みる	18
2.9	開始日/終了日があるオーソリゼーションを付与する	18
2.9.1	開始日があるオーソリゼーションを付与する	18
2.9.2	終了日があるオーソリゼーションの処理	19
2.10	オーソリゼーションのないメッセージの受信	19
3	追加テスト	21

1 前提条件

テストの準備

テストを実行する前に以下を行ってください：

- **RMA プランニングガイドを読む**

SWIFTNet RMA プランニングガイド(特に第一章と第二章)をお読みください。英語版はこちらで入手できます (www.swift.com/swiftnetphase2)。RMA のオペレーションに関する基本的な情報が記載されています。

- **RMA マネジメントソフトウェアをインストール**

RMA マネジメントソフトウェアは、FIN インターフェースの一部 (SWIFTAlliance Access または SWIFTAlliance Entry) に含まれているが、または単独のソフトウェアとして提供されています。

- **SWIFTNet に接続**

RMA マネジメントソフトウェアの SWIFTNet 接続が稼働していることを確認してください。接続オプションとして、SWIFTAlliance Gateway (SAG)もしくは SWIFTAlliance Starter Set (SAS)を使用することができます。

- **RMA ソフトウェアの構成**

RMA マネジメントソフトウェアを RMA テスト&トレーニング (T&T) 用に構成してください (RMA T&T を実行できるオペレーターの作成など)。

構成タスクに関するより詳細な情報は、ソフトウェアに添付されている説明書を参照してください。SWIFTAlliance Access (SAA)、SWIFTAlliance Entry (SAE)、SWIFTAlliance RMA (SAR)ユーザーは、製品 CD に入っている *SWIFTAlliance Access/Entry RMA User Guide* を参照してください。

- **RBAC ロールの割り当て**

RMA T&T で使用する識別名 (DN) を決定します。この DN には PKI 証明書が添付されていなければなりません。御社の PKI セキュリティオフィサー (SO) により、以下のロールベースアクセスコントロール (Role-Based Access Control、RBAC) が DN に割り当てられている必要があります：

- `swift.rma!p` サービス下では、SO は RMA ロール (`!p` はパイロットもしくはテストを意味します) を割り当てる必要があります。
- `swift.snf.control` サービス下の `SnFRequestor` ロールでは、SO はキュー名 `yourbic8_rma!p` (`!p` はパイロットもしくはテストを意味し、`yourbic8` はユーザーのライブ BIC8 を小文字にしたものです) を割り当てる必要があります。

SAG もしくは SAS を持っている場合、SO はこれらのロール割り当てを以下のように確認することができます：

1. SO のユーザー名を使用して、SWIFTAlliance WebStation を伴った SAG または SAS にログインします。
2. ユーザーのモジュール (左側にある管理ウィンドウ内) に行き、
3. ツリーの中にある DN を開きます。
4. DN のプロフィールタブ (*Profile tab*) を参照します。ここには DN に割り当てられている全ての RBAC ロールが表示されます。

SAG または SAS を使用していない場合は、SWIFTNet コミュニケーションソフトウェアを使用してください。RBAC ロールの割り当ての検証方法については、必要に応じてそのソフトウェアの説明書を参照してください。

- **BKE キーの確認**

FIN インターフェース上で、御社の T&T BIC8 間で使用できる BKE キーが T&T 内にあることを確認します。このような BKE キーがまだない場合は作成します。ペーパーキーと呼ばれているものをマニュアルで作成すれば十分でしょう。

BKE キーが所定通りであることを検証するため、認証 FIN T&T メッセージ (MT 299 など) を自身に送信します。自身の T&T BIC8 から、自身の T&T BIC8 にメッセージを送信します。メッセージの送受信が問題なく行われたことを確認します。

2 必須テスト

説明文書における便宜上のルール

本文書では、必須テストシナリオにおけるユーザーのライブ BIC を AAAANL2A、T&T BIC を AAAANL20 として説明しています。RMA メッセージ署名用の証明書は `cn=me,o=aaaanl2a,o=swift` としています。

2.1 ストアアンドフォワード RMA テストキューの取得

予備知識

ストアアンドフォワード RMA テストキューは、RMA テストメッセージを受信する (T&T BIC 宛に送信される RMA メッセージなど) SWIFTNet のキューです。これは SWIFTNet 上にあり、`_rma!p` が後に続くライブ BIC8 のキュー名を使用します。!p はパイロットもしくはテストであることを示し、このテストキューをライブキューと区別します。

例えば、このテストキューにつけられている名前は : `aaaanl2a_rma!p`

目的

RMA メッセージを受信するための技術的インフラが整っているかどうかを検証します。

前提条件

“前提条件” ページの 5 を参照してください。

テスト

ストアアンドフォワード RMA テストキュー `yourbic8_rma!p` を取得します。これは *オープニング*、*有効化 (activating)* もしくは *キューへのログオン* 等と呼ばれることもあります。

SAA、SAE、SAR のユーザーは RMA テストキューに対応する受信プロフィール (Reception profile) を有効化することで、SWIFTNet インターフェースアプリケーションからキューを取得することができます。

結果

ストアアンドフォワード RMA テストキューを問題なく取得できたかどうかを確認します。

SUCCESS : このキューは取得されました (*オープニング*、*有効化 (activating)* もしくは *ログオン* と呼ばれることもあります)。問題なく取得されたことがソフトウェア上に示されます。

FAIL : キューの取得中にエラーメッセージを受け取った場合、テストは失敗しています。エラーの原因を訂正し、エラーが出なくなるまでこのテストを繰り返し行います。キューを取得する機能が無事に動かないと、その他のテストを完了させることはできません。

よくあるエラーの原因:

- SWIFTNet に接続されていない
- SNL が起動/稼働していない
- 証明書を開くパスワードが違う
- 証明書 DN に誤ったロールベースアクセスコントロール (RBAC) ロールがつけられている

2.2 最初の RMA メッセージ送受信：照会回答

2.2.1 自身の T&T BIC に照会メッセージを送信

目的

SWIFTNet を使用した RMA メッセージの送信が可能であることを検証します。また、このテストを行うことにより RMA 照会機能を習得することができます。

前提条件

少なくとも一回は“ストアアンドフォワード RMA テストキューの取得” ページの 7 に成功してから、このテストを実行してください。

テスト

1. 自身の T&T BIC から自身の T&T BIC に RMA 照会メッセージを送信します。
例えば、FIN T&T サービス `swift.fin!p` についての照会回答を、RMA T&T `swift.rma!p` 上にて AAAANL20 から AAAANL20 に送信します。
2. 必要に応じて (ソフトウェアで要求された場合など)、ライブ BIC (例: AAAANL2A) を署名 BIC として、リスポンダー DN を `o=yourliveBIC8,o=swift` (例: `o=aaaanl2a,o=swift`) として入力してください。
3. 承認プロセス (4-eyes approval) が必要であるように RMA ソフトウェアを構成している場合、メッセージの送信にはその上席者からの承認を受ける必要があります。
4. 照会のフリーテキスト欄にこれがテスト送信であることを記入し、メッセージを送信します。

結果

照会メッセージが問題なく送信されたことを確認します。

SUCCESS : メッセージが受信されたことを示すストアアンドフォワード配信確認が SWIFTNet から送信されてきたら、照会メッセージの送信は成功です。テストはこれで完了です。

FAIL : メッセージの送信中にエラーメッセージを受け取った場合、テストは失敗しています。エラーの原因を訂正し、エラーが出なくなるまでこのテストを繰り返して行います。メッセージを送信できるようにならない限り、その他のテストを行うことはできません。

よくあるエラーの原因:

- SWIFTNet に接続されていない
- SNL が起動/稼働していない
- セキュリティオフィサー (SO) が署名 DN に証明書を割り当てていない
- ユーザーにより提供された証明書を開くためのパスワードが間違っている
- SO が署名 DN に誤った RBAC ロールを割り当てている

その他に考えられるエラー原因として、RMA メッセージ用に設定するストアアンドフォワード必須オプションがあります。例えば、全ての RMA メッセージには否認防止オプションを選択しなければならないことなどがあげられます。より詳細な情報は、*SWIFTNet RMA プランニングガイド*の第三章を参照してください。

2.2.2 RMA 照会メッセージの受信

目的

RMA テストサービスを使用した RMA メッセージの受信が可能であることを検証します。また、このテストを行うことにより RMA 照会メッセージの受信とその処理について習得することができます。

前提条件

RMA 照会メッセージを自身の T&T BIC に送信する“自身の T&T BIC に照会メッセージを送信”ページの 8 に成功してから、このテストを行ってください。

テスト

SWIFTNet は、照会メッセージを受信者のストアアンドフォワード RMA テストキューにルーティングします。RMA テストキューが取得されている場合、メッセージを受信することが可能です。

1. キューが取得されていない場合（クローズド、もしくは無効になっている場合）は、まず取得しなければなりません。“ストアアンドフォワード RMA テストキューの取得”ページの 7 を繰り返すことでキューを取得することができます。メッセージ送信後、受信まで数分かかることがあります。
2. 照会メッセージが問題なく受信されたことを確認します。
3. 照会メッセージのテキストを読みます。

結果

照会メッセージを受信し、照会のテキストを読みました。

2.2.3 RMA 回答メッセージを自身に送信

目的

RMA 回答メッセージが送信できることを検証します。

前提条件

RMA 照会メッセージを自身の T&T BIC で受信する“RMA 照会メッセージの受信”ページの 9 に成功してから、このテストを行ってください。

テスト

1. 受信した照会メッセージに返信する回答を準備します。
2. 回答メッセージ内に、これが回答メッセージのテスト送信であることを記入します。

結果

回答メッセージが SWIFTNet 上で問題なく送信されたこと（ストアアンドフォワードで配信確認があること）を確認します。

2.2.4 RMA 回答メッセージの受信

目的

RMA 回答メッセージが受信できることを検証します。

前提条件

“RMA 回答メッセージを自身に送信” ページの 9 に成功してからこのテストを行ってください。

テスト

回答メッセージを受信し、そのテキストを読みます。メッセージ送信後、受信まで数分かかることがあります。

結果

回答メッセージを受信し、そのテキストを読みました。

2.3 RMA オーソリゼーションの付与・受理

2.3.1 自身の T&T BIC に RMA オーソリゼーションを付与する

目的

RMA オーソリゼーションが付与できることを検証します。

前提条件

少なくとも一回は“ストアアンドフォワード RMA テストキューの取得” ページの 7 および“最初の RMA メッセージ送受信：照会回答” ページの 8 に成功してから、このテストを行ってください。

テスト

1. FIN T&T サービス `swift.fin!p` 用の RMA オーソリゼーションメッセージを、自身の T&T BIC から RMA T&T サービス `swift.rma!p` にある自身の T&T BIC に送信します。
2. 必要に応じて（ソフトウェアで要求された場合など）、送信時に自身の署名 BIC もしくはリクエスター DN、受信時に対応する署名 BIC もしくはリスポンダー DN を示します。署名 BIC はライブ BIC（例：AAAANL2A）であり、DN は `o=yourliveBIC8,o=swift`（例：`o=aaaaanl2a,o=swift`）となります。
3. 有効期間（*validity period*）は限定しないでください（開始日/終了日を記入しない）。
4. オーソリゼーションが承認するメッセージタイプ（MT）を限定しないでください。
5. 承認プロセス（4-eyes approval）が必要であるように RMA ソフトウェアを構成している場合、メッセージの送信には 2 番目の担当者からの承認を受ける必要があります。
6. オーソリゼーションメッセージを送信します。

結果

オーソリゼーションメッセージが SWIFTNet 上で問題なく送信されたこと (ストアアンドフォワードで配信確認があること) を確認します。

受信オーソリゼーションが有効化されており、サービス swift.fin!p (FIN T&T) 用として自身の BIC およびコルレス先の BIC が自身の T&T BIC と同じであることを確認してください。

2.3.2 自身に送信した RMA オーソリゼーションメッセージの受信と受理 (Accept)

目的

RMA オーソリゼーションメッセージが受信・受理 (Accept) できることを検証します。

前提条件

RMA オーソリゼーションメッセージを自身の T&T BIC に送信する“自身の T&T BIC に RMA オーソリゼーションを付与する” ページの 10 に成功した後、このテストを行ってください。

テスト

1. “自身の T&T BIC に RMA オーソリゼーションを付与する” ページの 10 で送信した RMA オーソリゼーションメッセージを受信します。メッセージ送信後、受信まで数分かかることがあります。
2. オーソリゼーションを受信し、それを受理 (Accept) します。
3. 承認プロセス (4-eyes approval) が必要であるように RMA ソフトウェアを構成している場合、メッセージの受信には 2 番目の担当者からの承認を受ける必要があります。

結果

送信オーソリゼーションが有効化 (Enabled) されており、サービス swift.fin!p (FIN T&T) 用として Own BIC および Correspondent BIC が自身の T&T BIC と同じであることを確認してください。

2.4 RMA オーソリゼーションを FIN インターフェースに転送 (該当する場合)

適用範囲

このテストは、FIN インターフェースが RMA マネジメントソフトウェアと異なるシステムで稼働している場合に適用されます。

FIN インターフェースが RMA マネジメントソフトウェアで送受信されたオーソリゼーションに自動的にアクセスできる場合、このテストを行う必要はありません。例えば RMA マネジメントソフトウェアが FIN インターフェースに内蔵されている場合 (SWIFTAlliance Access または Entry)、エクスポートおよびインポートする必要がないため、このテストは飛ばしてしまっても問題ありません。

目的

RMA マネジメントソフトウェアから FIN インターフェースにオーソリゼーションを転送できることを検証します。

前提条件

“RMA オーソリゼーションの付与・受理” ページの 10 が成功してから、このテストを行ってください。これにより、RMA マネジメントソフトウェアに少なくともオーソリゼーションが一つある状態になっているはずです。

テスト

1. RMA マネジメントソフトウェアから、自身の T&T BIC のオーソリゼーションをエクスポートします。
2. そのオーソリゼーションを、自身の T&T BIC8 と FIN メッセージを送受信することができる FIN インターフェースにインポートします。
3. エクスポート/インポートを自動的に行う場合、その自動プロセスが実行されていることを確認します。

結果

インポートが問題なく実行され、“RMA オーソリゼーションの付与・受理” ページの 10 で送受信したオーソリゼーションが FIN インターフェースに保管されていることを FIN インターフェースを使用して検証します。

2.5 RMA オーソリゼーションが FIN メッセージ通信を許可していることを検証

2.5.1 認証 FIN T&T メッセージを自身に送信

目的

RMA オーソリゼーションにより認証された FIN メッセージが送信できることを検証します。

前提条件

- “RMA オーソリゼーションの付与・受理” ページの 10 が成功してから、このテストを行ってください。必要に応じて、まず“RMA オーソリゼーションを FIN インターフェースに転送 (該当する場合)” ページの 11 を成功 (完了) させます。このテストは FIN インターフェースが自身に FIN T&T メッセージを送信するオーソリゼーションを所有しており、それが有効化 (Enabled) されていることを検証します。
- T&T のオーソリゼーションを要求するように (*authorisation required for T&T* パラメータを Yes に設定) FIN インターフェースが構成されていることを確認してください。

ノート これは BIC (LT) ごとのパラメータではなく、システム全体のパラメータです。

- T&T BIC8 (例: AAAANL20) で FIN にログオンする際、FIN プロトコルバージョン 3 を使用してください。言い換えれば、T&T BIC が SWIFTNet Phase 2 モードで稼働している必要があるということです。

テスト

認証 FIN メッセージ (MT 299 など) を、FIN プロトコルバージョン 3 上で FIN T&T にある自分自身に送信します (ダミーコンテンツを入れる)。認証が必要な FIN メッセージタイプ (MT) の一覧は *SWIFT User Handbook*、*SWIFT Standards MT*、*General Information* に記載されています。

結果

MT 299 が問題なく送信された (FIN ACK) ことを検証します。

2.5.2 BKE キーなしで認証 FIN T&T メッセージを自身に送信

目的

RMA オーソリゼーションが常に BKE キーより優先されることを検証します。オーソリゼーションが付与されると、BKE は無効になります (使用できなくなります)。

前提条件

“認証 FIN T&T メッセージを自身に送信” ページの 12 と同様です (以下参照):

- 自身にオーソリゼーションが付与されていて、有効 (Enabled) である
- *authorisation required for T&T* パラメータが Yes に設定されている
- FIN に T&T BIC の Phase 2 モードでログオンできる
- “認証 FIN T&T メッセージを自身に送信” ページの 12 が成功 (完了) している

テスト

1. BKE キー (自身の T&T BIC8 で) を所有している場合、それを自分で削除します。
2. BKE キーを削除した後、FIN メッセージ (MT 299 など) をもう一度自分自身に送信します。

結果

BKE キーがなくても認証メッセージが送信できることを確認します。

2.6 オーソリゼーションの拒否

2.6.1 送信オーソリゼーションの拒否

目的

送信されてきた RMA オーソリゼーションを拒否する (Reject) (受理(Accept)するのではなく) テストです。

前提条件

以下のテストに少なくとも一回は成功してから、このテストを実行してください:

- “ストアアンドフォワード RMA テストキューの取得” ページの 7
- “最初の RMA メッセージ送受信：照会回答” ページの 8

テスト

1. 新しい RMA オーソリゼーションを自身に付与 (送信) します (“自身の T&T BIC に RMA オーソリゼーションを付与する” ページの 10 と同様)。
2. 受信オーソリゼーションが有効化 (Enabled) されていることを確認します。

3. この RMA オーソリゼーションを SWIFTNet ストアアンドフォワードキューから受信します。

ノート メッセージ送信後、受信まで数分かかることがあります。

4. この受信オーソリゼーションを、**取引関係がありません (no business relation exists)** という理由で拒否 (Reject) します。必要に応じて、*SWIFTNet RMA Planning Guide* の付録で正しい理由コード (Reason Code) を確認します。
5. 拒否メッセージ内に、これがテスト目的での拒否であることを記入します。
6. 承認プロセス (4-eyes) が必要な場合は、この拒否を承認します。

結果

送信オーソリゼーションが拒否されたことを確認します。また、前回の送信オーソリゼーション (“自身に送信した RMA オーソリゼーションメッセージの受信と受理 (Accept)” ページの 11 で交換および受理されたもの) がこの拒否された送信オーソリゼーションで置き換えられていることを確認します。

拒否メッセージが自身に送信されていることを確認します (ストアアンドフォワードでの配信確認)。

2.6.2 送信されてきた拒否メッセージの処理

目的

送信されてきた拒否 (Reject) メッセージが処理できるようになっていることを検証し、拒否 (Reject) メッセージそのものが拒否されないことを確認します。

前提条件

拒否 (Reject) メッセージを自身に送信する“送信オーソリゼーションの拒否” ページの 13 を成功させてから、このテストを行ってください。

テスト

1. 拒否 (Reject) メッセージを受信します。メッセージ送信後、受信まで数分かかることがあります。
2. 拒否 (Reject) メッセージの理由コード (Reason Code) を検証します。
3. *SWIFTNet RMA Planning Guide* の付録で理由コード (Reason Code) を確認します。
4. 拒否 (Reject) メッセージのフリーテキスト欄に記入されたテキストを読みます。

結果

以下を確認します:

- 拒否 (Reject) メッセージが受信されている
- 理由コード (Reason Code) が理解できている
- フリーテキストが読めている
- これにより、受信オーソリゼーションが拒否 (Reject) ステータスになりました。

2.6.3 送信オーソリゼーションが拒否された状態で FIN メッセージの送信を試みる

目的

送信オーソリゼーションが拒否 (Reject) ステータスにある場合は FIN メッセージが送信できないことを検証するテストです。同時に、送信オーソリゼーションが拒否 (Reject) ステータスであっても認証不要の FIN メッセージは送信できることを検証します。

前提条件

- 拒否 (Reject) メッセージを自身に送信する“送信オーソリゼーションの拒否” ページの 13 を成功させてから、このテストを行ってください。
- BKE キーがあることを確認します。
- T&T にオーソリゼーションが必要であるように FIN インターフェースが構成されていることを確認します。

ノート *Authorisation Required for Test and Training* パラメータが **Yes** に設定されている必要があります。これは BIC (LT) ごとのパラメータではなく、システム全体のパラメータです。

- FIN プロトコルバージョン 3 上の T&T BIC で FIN T&T にログオンしていることを確認します。
- 必要であれば (適用される場合は) RMA マネジメントソフトウェアからオーソリゼーションをエクスポートし、FIN インターフェースにインポートします。
- 自身に付与した送信オーソリゼーションが、FIN インターフェースで拒否 (Reject) ステータスになっていることを検証します。

テスト

1. 認証 FIN メッセージ (MT 299 など) の自身への送信を試みる
2. 認証不要の FIN メッセージ (MT 999 など) の自身への送信を試みる

結果

1. BKE キーをまだ所有していても、オーソリゼーションが拒否 (Reject) ステータスになっている場合は認証 FIN メッセージ (MT 299 など) を自身に送信できないことを確認します。

ノート 認証メッセージを送信するには、送信オーソリゼーションが有効 (Enabled) になっている必要があります。オーソリゼーションが付与されている場合 (ステータスに関わらず)、BKE キーは無効となります。

送信オーソリゼーションが拒否 (Reject) ステータスであるにも関わらず認証メッセージの送信ができた場合、その理由として FIN プロトコルバージョン 3 でログオンしていない、もしくは FIN インターフェースの *Authorisation Required for FIN Test and Training* パラメータが **No** に設定されている可能性が考えられます。

2. 送信オーソリゼーションが拒否 (Reject) ステータスの状態で、認証不要の FIN メッセージ (MT 999 など) が送信できることを確認します。

ノート 認証不要の FIN メッセージは、オーソリゼーションや BKE キーを必要としません。

認証を必要とする FIN メッセージタイプ (MT) の一覧は、*SWIFT User Handbook*、*SWIFT Standards MT*、*General Information* に記載されています。

2.7 オーソリゼーションの削除

2.7.1 以前受理した RMA 送信オーソリゼーションの削除

目的

以前受理した RMA 送信オーソリゼーションの削除 (Delete) をテストします。

前提条件

“RMA オーソリゼーションの付与・受理” ページの 10 を完了させ、自身に送信オーソリゼーションが付与されていて有効 (Enabled) な状態にしてからこのテストを実行してください。

テスト

送信オーソリゼーションを自分で削除 (Delete) してください。これにより送信オーソリゼーションのステータスは「削除 (Delete)」となり、理由コード (Reason Code) `xrma.003.4` 「記録削除 (Record Deleted)」の拒否メッセージが自分自身に送信されます。

結果

1. 送信オーソリゼーションのステータスが「削除 (Deleted)」であることを確認します。
2. また、前回の送信オーソリゼーション (“RMA オーソリゼーションの付与・受理” ページの 10 で交換および受理されたもの) がこの削除された送信オーソリゼーションで置き換えられていることを確認します。
3. 拒否 (Reject) メッセージが自身に送信されていることを確認します (ストアアンドフォワードでの配信確認)。

送信されて来る拒否 (Reject) メッセージの処理は“送信されてきた拒否メッセージの処理” ページの 14 と同様に行われます。また FIN メッセージに対する影響は“送信オーソリゼーションが拒否された状態で FIN メッセージの送信を試みる” ページの 15 と同様です。

2.7.2 送信されてきた拒否メッセージの処理

目的

“送信されてきた拒否メッセージの処理” ページの 14 と同様です。

結果

受信オーソリゼーションのステータスが「拒否 (Rejected)」になっていることを確認してください (送信オーソリゼーションのステータスは「削除 (Deleted)」)。

2.7.3 送信オーソリゼーションのステータスが「削除」の状態 で FIN メッセージの送信を試みる

目的

“送信オーソリゼーションが拒否された状態で FIN メッセージの送信を試みる” ページの 15 と同様です。

結果

送信オーソリゼーションのステータスが「削除 (Deleted)」になっている場合は認証 FIN メッセージが送信できないことを確認してください。

2.8 オーソリゼーションの破棄

2.8.1 受信オーソリゼーションの破棄

目的

以前に作成した RMA オーソリゼーションを破棄 (Revoke) することです。

前提条件

“RMA オーソリゼーションの付与・受理” ページの 10 を完了させ、自身に対する送信オーソリゼーションおよび受信オーソリゼーションが付与されていて有効な状態にしてからこのテストを行ってください。

テスト

有効な状態になっている受信オーソリゼーションを自分で破棄 (Revoke) してください。これにより受信オーソリゼーションのステータスは「破棄 (Revoked)」となり、破棄メッセージが自身に送信されます。

結果

受信オーソリゼーションのステータスが「破棄 (Revoked)」であることを確認します。また、前回の受信オーソリゼーション (“RMA オーソリゼーションの付与・受理” ページの 10 で作成されたもの) がこの破棄された受信オーソリゼーションで置き換えられていることを確認します。

破棄メッセージが自身に送信されていることを確認します (ストアアンドフォワードでの配信確認)。

2.8.2 送信されてきた破棄メッセージの処理

前提条件

“受信オーソリゼーションの破棄” ページの 17 を完了させ、自身に破棄メッセージが送信されてからこのテストを行ってください。

テスト

“受信オーソリゼーションの破棄” ページの 17 で送信された破棄メッセージを受信します。メッセージ送信後、受信まで数分かかることがあります。

結果

破棄メッセージを受信しており（理由コードやフリーテキストは含まれていません）、送信オーソリゼーションのステータスが「破棄（Revoked）」になっていることを確認してください。

2.8.3 送信オーソリゼーションのステータスが「破棄」の状態で FIN メッセージの送信を試みる

目的

このテストの内容および期待される結果は、「送信オーソリゼーションが拒否された状態で FIN メッセージの送信を試みる」ページの 15 と同様です。従って、コルレス先に対する送信オーソリゼーションが破棄されている場合、当該コルレス先に認証 FIN メッセージ（MT 299 など）は送信できないことを検証するためにこのテストを再度行ってください。MT 999 などの認証不要の FIN メッセージは以前と同じように送信することができます。

2.9 開始日/終了日があるオーソリゼーションを付与する

2.9.1 開始日があるオーソリゼーションを付与する

目的

開始日（Start Date）があるオーソリゼーションの仕組みを検証します。

前提条件

少なくとも一回は「RMA オーソリゼーションの付与・受理」ページの 10 に成功してから、このテストを実行してください。

テスト

1. 自身の T&T BIC に、開始日（Start Date）が翌日となるオーソリゼーションを付与します（終了日（End Date）を指定する必要はありません）。
2. このオーソリゼーションが、自身に対して以前作成している受信オーソリゼーションを置き換え（上書き）していることを確認します。
3. このオーソリゼーションを受信および受理（Accept）します。
4. このオーソリゼーションが、自身に対して以前付与している送信オーソリゼーションを置き換え（上書き）していることを確認します。
5. このオーソリゼーションの受理後（開始日前の段階）、認証 FIN メッセージ（MT 299 など）が自身に送信できなくなっていることを確認します。

結果

開始日まで待ち、自身に認証 FIN メッセージをもう一度送信してみます。今度は送信されるはずです。

ノート RMA オーソリゼーションの有効期間（Validity period）は常に UTC 時間（グリニッジ標準時、GMT）で表示されます。時間を指定することはできないため、開始日は常に開始日の午前 00:00:00h UTC から有効になります。00:00:00h UTC に対応する現地時間は、各地のタイムゾーンを参照してください。

2.9.2 終了日があるオーソリゼーションの処理

目的

終了日 (End Date) があるオーソリゼーションの仕組みを検証します。

前提条件

少なくとも一回は“RMA オーソリゼーションの付与・受理” ページの 10 に成功してから、このテストを実行してください。

テスト

1. 自身の T&T BIC に、終了日 (End Date) が翌日となるオーソリゼーションを付与します (開始日 (Start Date) を指定する必要はありません)。
2. このオーソリゼーションが、自身に対して以前作成している受信オーソリゼーションを置き換え (上書き) していることを確認します。
3. このオーソリゼーションを受信および受理 (Accept) します。
4. このオーソリゼーションが、自身に対して以前付与している送信オーソリゼーションを置き換え (上書き) していることを確認します。
5. このオーソリゼーションの受理後、認証 FIN メッセージ (MT 299 など) が自身にまだ送信できることを確認します。

結果

終了日 (End Date) まで待ち、自身に認証 FIN メッセージをもう一度送信してみます。まだ送信されるはずですが。

終了日 (End Date) の翌日に、認証 FIN メッセージをもう一度送信してみます。今度は送信されなくなっているはずですが。

ノート RMA オーソリゼーションの有効期間 (Validity period) は常に UTC 時間 (グリニッジ標準時、GMT) で表示されます。時間を指定することはできないため、終了日は常に終了日の午前 00:00:00h UTC から有効になります。00:00:00h UTC に対応する現地時間は、各地のタイムゾーンを参照してください。

2.10 オーソリゼーションのないメッセージの受信

目的

このテストには以下の目的があります:

- 特別なケースにおいては、オーソリゼーションのないメッセージも受信できることの確認
- そのようなオーソリゼーションのないメッセージの処理テスト

前提条件

少なくとも一回は“開始日/終了日があるオーソリゼーションを付与する” ページの 18 に成功してから、このテストを実行してください。

テスト

1. 自身の T&T BIC に開始日 (Start Date) /終了日 (End Date) のないオーソリゼーションを付与し、それを受信および受理します。
2. その後、自身の T&T BIC に開始日が翌日のオーソリゼーションを作成・付与します。
3. このオーソリゼーションが、その前に作成している受信オーソリゼーションを置き換え (上書き) していることを確認します。これにより、翌日の開始日を持つ受信オーソリゼーションが作成されました (開始日のある送信オーソリゼーション送信) 。
4. 開始日を持つ送信オーソリゼーションを受信してください。ただし、まだ受理 (Accept) や拒否 (Reject) はしないでおきます。この段階では、元からあった開始日のない送信オーソリゼーション (前提条件を参照) がまだ有効となっています。
5. 認証 FIN メッセージを自身に送信し、
6. それを受信します。

結果

認証 FIN メッセージを送信することができます (開始日がない送信オーソリゼーションが有効となっているため) 。

しかし、受信の際にオーソリゼーション失敗となります。これは受信オーソリゼーションの開始日が先日付になっているからです (まだ有効ではない) 。このため、FIN メッセージは FIN インターフェースの失敗キュー (Failure queue) に入れられることとなります。こうしたオーソリゼーションのないメッセージの処理 (どうすることができるか) は使用している FIN インターフェースの機能によって異なります。

必須テストシナリオは以上です。

3 追加テスト

概要

SWIFT は、以下の追加テストを行うことを推奨しています。:

- 詳細設定オーソリゼーション (granular Authorisations。RMA マネジメントソフトウェアでそれができる場合) を作成・付与し、許可/非許可 FIN メッセージタイプ (MT) に対する影響の検証。
- RMA スパーリングパートナー (SWHQBE90) を T&T コルレス先としてテストを繰り返します。使用しているソフトウェアで必要であれば、スパーリングパートナーのライブ BIC8 をリスポンダー DN または対応する署名 BIC として指定します : SWHQBE9H
RMA スパーリングパートナーの機能に関するより詳細な情報は、*SWIFTNet RMA Planning Guide* の第 4 章を参照してください。
- T&T で、その他のコルレス先とテストを繰り返す
- RMA ソフトウェアの監査ログにどのアクションがログオンされているかの検証
- 定期的なバックアップの取り方、データ損失の際に必要なリカバリーの手順などに親しんでおく:
 - バックアップの実行
 - バックアップ後にオーソリゼーションを交換
 - RMA データストアのバックアップの復元 (リストア)
- RMA マネジメントソフトウェアと SWIFTNet 間の接続が失われた際の復旧手順の練習
- コルレス先銀行と業務上関わりがある他部署や社員にも連絡し、RMA という新たな方式に対する理解を深めてもらう。そうした他部署が関連した場合における RMA でのリレーションシップ構築/拒否のテストシナリオを作成、実行します。